【小学校・その他の体験活動】

ホームステイ　－仮親敷地教育－

静岡県豊岡村立豊岡東小学校

学　校　の　概　要

① 学校規模

○ 学級数：７学級

○ 児童数：７７人

○ 教職員数：１２人

② 体験活動の観点からみた学校環境

○ 豊岡村は，地理的には静岡県の西部地方に位置し，農業の盛んな農山村である。近年は，工業団地の造成により工場の進出がめざましい。

○ 学区は，南北に細長く，北は山間地，南は田園が広がり，自然環境に恵まれている。

○ 保護者の多くは会社員であるが，専業農家も１割程あり，茶・椎茸・柿を特産としている。三世代同居する家庭が８割強を占める。

○ 子供たちは，素直で思いやりがあるが，新しいことに挑戦する気持ちや集団の中で自己表現したり，進んで交流したりするたくましさや，自らの生活を切り拓く自立心を伸ばしたい。

③ 連絡先

○ 〒４３８－０１０６
静岡県磐田郡豊岡村敷地８９１－１

○ 電　話：０５３９－６２－２０４４

○ ＦＡＸ：０５３９－６２－５９６８

○ ホームページ：
http://www.vill.toyooka.shizuoka.jp

○ 電子メール：
higashisyou @vill.toyooka.shizuoka.jp

体　験　活　動　の　概　要

① 活動のねらい

○ 登校日に自宅以外の仮親の家庭で２泊３日にわたって生活し，多くの異なった生活の仕方があることを実際の体験として学ぶ。

○ 体験活動を通して自ら考え生活していく自立心や礼儀作法，思いやりの心，自制心を身に付けさせる機会とする。

○ 仮親との交流により，生き方や生活していく上での知恵をはぐくむ機会とする。

○ 異学年集団で宿泊することで，上級生は責任感・思いやる心を，下級生は感謝・協力などの信頼関係と人間関係を築く力を育てる。

② 主な活動内容・方法（位置付け・期間等）

○ 第３学年以上の児童全員参加による学校・家庭・地域三者連携による宿泊体験活動

○ 期間は２泊３日（７月上旬）

○ 仮親募集の案内状は地区全戸に配布

○ 学級活動において，生活表，めあて・手伝い・自己紹介の手紙作成（特別活動１時間）

○ ホームステイ中の通学班編制や持ち物の指導，仮親との対面式（裁量の時間２時間）

○ 米１合を仮親へ渡す。交通費（バス代）と保険は村費より支出。その他の経費は仮親負担

③ 体制等の工夫

○ ３者組織ホームステイ実行委員会を核に実施要項の検討，対面式，反省会等を運営

④ 活動の成果等

○ 生活上の自立に必要な知識・技能や生活習慣が一層身に付いた。

○ 他校との交流学習に積極的・主体的に取り組めるようになった。

○ 親と仮親双方がしつけを見直す機会となった。

1　活動に関する学校の全体計画

（1）活動のねらい

ア　自宅以外の仮親の家庭で生活し，多くの異なった生活の仕方に気付く。

イ　自らが考えて生活をしていく自立心や社会性を身に付ける。

ウ　礼儀や思いやりの心などの大切さを実感する。

（2）全体の指導計画

ア　活動の名称

「ホームステイ　－仮親敷地教育－」

イ　実施学年

３～６年生

ウ　活動内容

（ア）自分の身の回りのことを自分でする。（荷物の整とんや明日の準備，就寝の準備など）

（イ）仮親さんとふれあう活動（お話をする・トランプなどで遊ぶなど）

（ウ）お手伝いを進んでする。（食事の準備・食器運びなど）

エ　教育課程上の位置付け

（ア）７月の第１週の木～土曜日にかけて実施している。

（イ）事前指導と事後指導は，学級活動の時間で扱っている。また，学校裁量の時間を利用して，ホームステイ中の通学班編制や持ち物についての確認と指導，仮親との対面式を行っている。

オ　実施時期

日数は，７月７日～９日（２泊３日）

カ　活動場所

募集に応じてくれた仮親宅に宿泊する。

キ　継続の状況等

平成５年度ＰＴＡ校外生活委員長の提案により，ＰＴＡ総会で承認後実施し，本年度で９年目を迎える活動である。当初ＰＴＡ役員が地域住民に趣旨を説明して回るとともに，受入家庭の依頼に各地区を熱心に回るなどしたことから始められた地域ぐるみの活動である。

2　活動の実際

（1）事前指導

ア　一人一人の児童を伸ばすグループ編制と仮親の決定

仮親募集のお願いの文書は，配布から半月後に，ＰＴＡの会員が小学校区の全家庭から回収した。例年２０軒～２５軒ぐらいのお宅で受けてくださり，地域の方々の「子どもを地域で育てる」姿勢に感謝している。

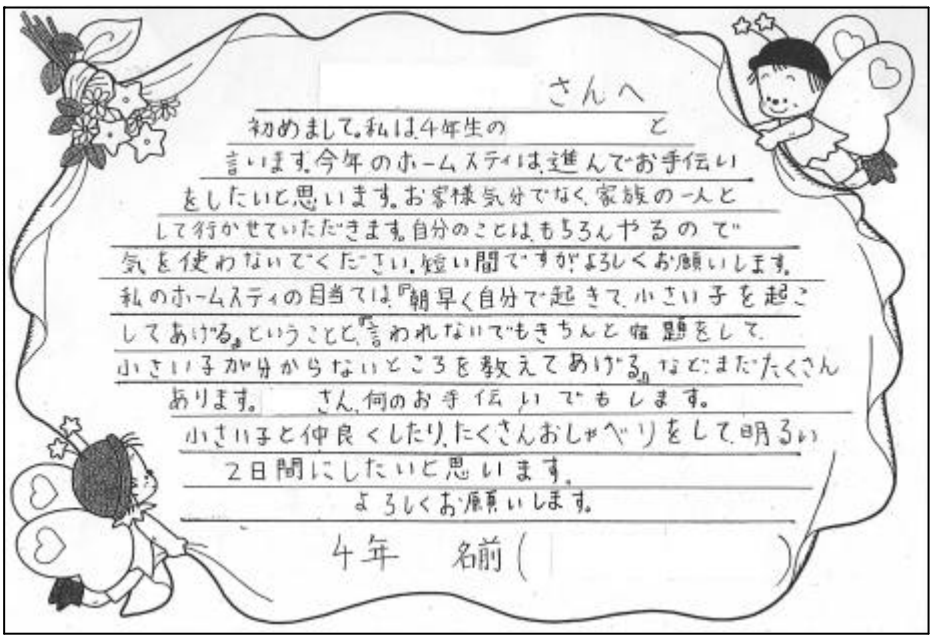
仮親が決定したところで，教職員はグループ編制に取りかかる。ホームステイに参加する児童のグループ編制について，昨年の児童の様子や昨年のグループ編制・ホームステイ先などに配慮しながら，全教職員で検討した。小学校区が３ブロック編制になっていることやバス通学の地区もあることから，自分の居住ブロックとは違うところになるように配慮している。

グループ編制では，高学年の児童については，リーダー性が発揮できるように配慮し，低学年の児童，特に３年生については初めての体験なので，安心して活動ができるような編制

を考えている。

イ　ホームステイ中のめあて，お手伝い・自己紹介カードの記入

グループ編制が決定すると，子どもに発表する。自分のめあてやお手伝いを考える活動を学級活動で行うころから，子どもたちのホームステイへの気持ちはどんどん高まっていく。そして，仮親に自己紹介の手紙を書き，心の準備と荷物の準備に取りかかり，ホームステイの日を待ち望む。中には，親元を離れての生活に不安な気持ちを抱く子もいるので，１週間前から家庭で健康観察をしてカードに記入してもらい，よいコンディションで参加できるように支援している。


さんへ

初めまして。私は4年生の　　と
言います。今年のホームスティは進んでお手伝い
をしたいと思います。お客様気分でなく家族の一人と
して行かせていただきます。自分のことはもちろんやるので
気を使わないでください。短い間ですがよろしくお願いします。
私のホームスティの目当ては『朝早く自分で起きて小さい子を起こ
してあげる』ということと『言われないでもきちんと宿題をして
小さい子が分からないところを教えてあげる』などまだたくさん
あります。　さん何のお手伝いでもします。
小さい子と仲良くしたりたくさんおしゃべりをして明るい
２日間にしたいと思います。
よろしくお願いします。
4年　名前（　　）

【４年生児童の自己紹介ワークシート】

（２）活動の展開

ア　対面式

ホームステイのスタートは，荷物を持って体育館に集まり，仮親の方と顔を会わせることから始まる。

同じ地域に住んでいる方といっても，初対面の児童も多く，初めはどきどきしている。仮親の方に名前や家族のことを話していくうちに，笑顔が見られるようになる。対面式が終わると，仮親の方と一緒に下校していく。

【うちは中学生の女の子がいるから，にぎやかよ。自分の家と思ってね。】

イ　仮親宅での生活

仮親宅に着いた児童は，「よろしくお願いします。」と挨拶を交わし，持参した米１合を渡す。２泊３日を終えて登校した児童の次の会話から仮親宅での生活が分かる。

「仮親さんと話をしながら夕食作りをしたよ。」

「仮親さんの家の赤ちゃんと遊んだよ。」

「お手伝いしたよ。」

「仮親さんから昔話を聞いたよ。」
「一緒に泊まった下級生の世話をしたよ。」
「緊張して眠れなかったけど，朝は早く起きてしまったよ。」
「夕食は残さず食べたよ。」

このような会話から，緊張しながらも様々な体験ができていることが分かる。

仮親の方は，子供のことを家族の一員として接してくださる。本読みを聞いてくれたり，話をしてくれたり，夕食の手伝いを始め様々な手伝いをさせてくれたりする。体験させてもらったことを挙げる。

【夕食の盛り付け，手伝います】

〈体験の例〉

○　遊び

トランプ，ウノ，将棋，オセロ，折り紙，山びこ，花火，虫とり，スイカ割りなど

○　手伝い

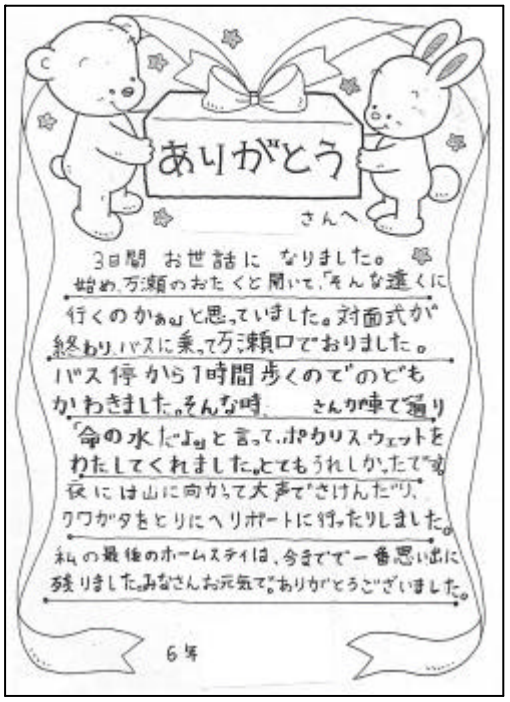
食事の支度，動物の世話（犬の散歩），風呂掃除，小さい子と遊ぶ，まき割りなど

【仮親さんと楽しく食事】

（３）事後指導

ア　仮親へのお礼状，自己反省

ホームステイを終えると，自己反省をし，仮親にお礼の手紙を書く活動をしている。体験させてもらったこと・迷惑をかけてしまったことなど，子どもたちが自分のの素直な気持ちを表現している。


ありがとう

さんへ

3日間 お世話に なりました。
始め、万瀬のおたくと聞いて、「そんな遠くに行くのかぁ。」と思っていました。対面式が終わり、バスに乗って万瀬口でおりました。バス停から1時間歩くのでのどもかわきました。そんな時、 さんが車で通り「命の水だよ。」と言って、ポカリスウェットをわたしてくれました。とてもうれしかったです。夜には山に向かって大声でさけんだり、クワガタをとりにヘリポートに行ったりしました。私の最後のホームステイは、今までで一番思い出に残りました。みなさんお元気で。ありがとうございました。

6年

【お世話になりました】

【２泊３日，思い出がいっぱいできました】

３　体験活動のための指導体制

（１）学校の体制，家庭や地域との連携

ア　校内

・　校長及び教頭：企画案の指導，助言，ＰＴＡとの調整

・　生徒指導主任：ホームステイ実施要項の企画立案

・　担任：めあて，生活表，グループ編制，手紙等の直接指導

・　養護教諭：健康管理カード作成指導，配慮事項確認

イ　家庭

・　健康観察カードの記入（事前の健康観察，緊急連絡先）

・　事前調査の記入（健康面などで心配な事や要望）

・　日頃のしつけの見直し

ウ　ＰＴＡ

・　校外生活委員

アンケートの実施，仮親募集，仮親事前打合せ会の運営及び対面式の運営，仮親反省会の運営

・　ホームステイ実行委員会

ＰＴＡ三役と校外生活委員・学校職員・仮親で組織され，実施要項の検討，運営を行う。

エ　仮親

・　宿泊した児童へのしつけ面の直接指導及び生活体験の企画と支援，交流内容の運営

（２）その他

・　病気や怪我への備えとして，３日間の傷害保険に加入する。

・　通学バスを利用する地域に出かける児童については，バス代は村費から支出する。

４　成果と課題

活動後に実施したアンケート調査では，ほぼ全員の児童がめあてを達成し，仮親との交流で思い出をたくさん作り満足している。

児童☆　・仮親△　・保護者□　・教職員◇

☆　私は，ホームステイで○○さんの家に行けてよかったです。また，今度一緒に行った人たちと遊びに行きたいです。夏休みにも泊まりに行ってよければ行きたいです。

☆　楽しいホームステイになりました。私は，卵を焼いたり花火をしたり，とても楽しかったです。短い間だったけど家でできないことがたくさんできました。

△　子どもたちに「今回のホームステイで何をしたいの？」と聞いて，そのことに向かって子どもたちと取り組みました。

△　高学年の子が低学年の子の面倒をしっかり見ていました。また，低学年の子は高学年の子を本当の兄弟のように慕って協力していました。こちらもとてもさわやかな気持ちになりました。

□　家でやらせたことのない手伝いをやらせていただき，帰ってきた子どもの「家でもやらせてほしい。」の言葉が嬉しかった。

□　ホームステイの翌日，「じゃあ，お風呂洗いしてくるね。」の声にびっくり。全体的に一回り大きくなったような気がしました。

◇　自分の家とは違う食習慣や料理の作り方を知り，感激している子が多く，良い経験になり

ました。

◇　指導した子どもの姿を通して，学校・家庭・地域社会の連携の在り方を見直す絶好の機会でした。

5　今後の取組の方向

「ホームステイ」は，学校・家庭・地域が連携して推進している行事である。来年度以降も継続し，更に内容を充実させていくこととしている。仮親の方と初めて出会う対面式の工夫をしたいと考えている。話し合う時間を増やし，心のつながりを持ったところで，その家の約束事についても仮親の方から話していただき，子どもも家ごとに慣習が違うことを理解できると考える。

「苦労もあるが，楽しみだよ。」と言ってくれる仮親さんの言葉がある。この言葉が続くかぎり，この活動は継続していくことができると感じている。

【本事例活用に当たっての留意点】

本実践は，登校日に自宅以外の仮親の家庭で２泊３日にわたって生活するもので，平成５年度から始まり，既に９年間の積み重ねがある。それは，例えば，受け入れ家庭の依頼に各地区を熱心に回る，前年度の様子に配慮して本年度の計画を検討するなど，計画・実践・評価が適切に行われてきたことを意味する。こうした姿勢は子どもの参加意欲や自主性・主体性の高め方，心理的，物的な準備などの面にも反映されて，場当たり的ではない，見通しをもった実践になっている。地域ぐるみの活動を進めるには，短・中・長期のプランを立てて段階的に着実に進めることが望まれる，ということであろう。本実践を通して，親・仮親（家庭・地域），教師（学校）の３者に親密なかかわりが生まれ，自律的な子どもが育つとともに，地域の教育力が高まっていることもうかがえる。それは９年間の実績であり，継続的な実践が行われてこその結果であると言える。